

やまと 民俗への招待

奈良市学園前の新興住宅地で、法螺貝が鳴り響く日がある。近鉄奈良線の学園前駅周辺地区は、昭和30年代以降に開発された新しい街で、現代的な風俗があふれている。

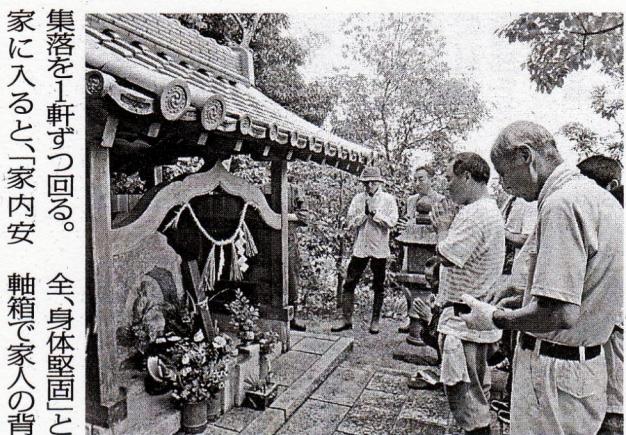
北側の住宅地の中を、西は富雄川を経て生駒に至り、東は西大寺・法華寺を経て奈良へ通じる古い道が走っている。この道沿い、学園前駅の北西の地に、新田という18戸の集落がある。田畠があり、新興住宅地とは異なった新しき世界だ。集落の北側の山に

奈良市学園前の新興住宅地で、法螺貝が鳴り響く日がある。近鉄奈良線の学園前駅周辺地区は、昭和30年代以降に開発された新しい街で、現代的な風俗があふれている。

は、役行者をまつる小堂がある。貝の音が響くのはこの役行者をまつる9月第1日曜日の行者講の日だ。

午後2時頃、人々はお堂に集まってきて、花を供え線香をたく。時々貝が吹き鳴らされる。一同そろうと般若心経を唱える。終わると2軒の当番の人は、法螺貝を吹きながら、蔵王権現に理源大師と役行者を配した掛軸を入れた木箱を持って、

住宅地に響く法螺貝



役行者をまつるお堂で読経する新田の人々
=2013年9月1日撮影、筆者提供

すって加持祈禱する。お供えの膳を入れる箱には「宝曆五年（1755年）」の墨書きがあるので、既にその頃には行っていたことが分かる。行者講が終わると人々はすぐに集落の草刈りや掃除をして、その後ナオライ（直会）となる。

新田の集落は通念仏宗の檀家で、毎年12月には本山（大阪市平野区、大念佛寺）の本尊十一尊天得如来の画

像が出光して、檀家を1軒ずつ回る「御回在」という行事がある。この時は鉦の音が響き渡る。集落の南東、新興住宅のただ中にある地蔵山の地蔵前では、8月第3日曜日に地面に墓蓋を敷き、読経に合わせてにぎやかに数珠くらしが行われる。自動車などの近代的な音に慣れた街でも、耳を澄ますと古くからの「暮らしの音」が聞こえてくる。

（奈良民俗文化研究所
代表・鹿谷勲）